

# 動物生活史における表現型転換： 三崎臨海実験所における 進化動物学の展開

Phenotypic transitions in animal life cycles:  
Evolutionary zoology in Misaki Marine Biological Station



**講師：三浦 徹 教授**

(東京大学・大学院理学系研究科・附属臨海実験所)

**6月20日(木) 16:10～**

**ゲノクス棟2階セミナー室**



ミサキムチョウウズムシ  
*Hofstenia atroviridis*



ミドリシリス *Megasyllis nipponica*

私はこれまで、昆虫類を主な対象として表現型可塑性(とくに表現型多型)について、つまり生活史の中で受ける環境要因に応じて巧みに表現型を変化させる生理学的・発生学的機構の解明とその進化について、シロアリのカースト分化、クワガタムシの大顎多型、ミジンコの誘導防御、アブラムシの生活史多型、サンショウウオの幼生の可塑性などをテーマとして、進化発生学的研究を展開してきました。2017年に東大三崎臨海実験所に着任することを契機に、海産動物を対象とした研究を開始し、現在では、環形動物シリスにおける得意な繁殖様式、軟体動物ミノウミウシの盗刺胞と呼ばれる防衛、有櫛動物クラゲムシの変態、無腸動物の繁殖様式と発生、棘皮動物の発生と再生などについて研究を行っています。

各テーマに共通したコンセプトとして、動物の生活史の中でいかにして発生機構を調節して表現型を改変し、その系統特異的なパターン(共有派生形質)を獲得したか、またそれが動物進化の鍵革新(イノベーション)につながったかについて考察することを目的としています。本セミナーでは、これまでの研究の展開から今後どのような研究を目指すのかについて紹介します。